

新規則解説（2）

ルール委員会

前号で新規則の解説を掲載しましたが、その後第27条（不十分なビッド）の条文が修正されました。今回は旧規則からの最大の変更点である第27条について解説します。

第27条の条文を簡単に紹介します。

A項 不十分なビッドの受け入れ

反則者のLHO（左側の対戦相手）は受け入れることができます。このプレイヤーがコールすると受け入れたことになります。

B項 不十分なビッドが受け入れられなかつた場合

不十分なビッドが受け入れられなかつた場合、合法なコールに言い直さなければなりません。

1 (a) 同じデノミネーションで最も低い十分なビッドに言い直した場合、不十分なビッドと言い換えたビッドの双方が疑問の余地なくアーティフィシャルではないとディレクターが判断した場合はこれ以上の調整はありません。

1 (b) (a)を除き、不十分なビッドと同じ意味を持つか、より詳細な意味を持つコールに訂正されたとディレクターが判断した場合はこれ以上の調整はありません。

2. その他の十分なビッドまたはパスに言い直した場合は反則者のパートナーはコールする順番のとき常にパスしなければなりません。

3. 省略

4. 省略

C項 早まった言い換え

ディレクターが裁定する前に反則者が不十分なビッドを言い換えた場合、反則者のLHOが最初の不十分なビッドを受け入れたときはA項が適用されます。受け入れないとときは言い換えたコールが成立して、B項の該当する規定が適用されます。

D項 省略

B項が全面的に書き換えられ、同じデノミネーションで最も低い十分なビッドに言い換えた場合の記述が独立しました。

B項1 (b)の「より詳細な意味を持つコール」とは、5枚以上を示すコールは4枚以上を示すコールより、15～17点を示すコールは13点以上を示すコールより「より詳細な意味を持つコール」になります。実際の例を示すと、4NT—(5♡)—5♦(1/4キーカード)と、オーバーコールに気づかずRKC Bに不十分なビッドで答えた場合、言い直したコールが同じ1/4キーカードを示すなら「同じ意味を持つコール」になり、また、1キーカードしか示さない場合は、4キーカードの可能性が除外されますから「より詳細な意味を持つコール」になります。言い直したコールが「奇数枚のキーカード」を示す場合は「同じ意味」にも「より詳細な意味」にも当てはまらないコールに言い直したと判断されて、B項2の規定が適用され、パートナーは常にパスになります。

前号でもお知らせしましたが、不十分なビッドが起こり、ディレクターが呼ばれる前に言い換えた場合、旧規則では言い換えようとしたコールを取り消して、ディレクターの説明を受けたあとで改めてコールを選択する事ができましたが、新規則ではC項に書かれているとおり、反則者のLHOが最初の不十分なビッドを受け入れなければ、言い換えたコールが自動的に成立してB項の該当する規定が適用されます。あわてて言い換えると、パートナーがコールの順番に常にパスしなければならなくなることもあるので、不十分なビッドが起きたらすぐディレクターを呼び、その説明を聞いてからコールを考えましょう。

条文は修正されましたが、基本的な考え方は修正前と変わりません。具体的な例は前号の新規則解説をご覧ください。